

ティーキー Q たろうじい

「恩がえし」

これはうらしま学校の教科書です。今のうちの学校、つまり、おもての学校についていけない方も、うらしま学校へようこそいらっしゃいました。

この教科書を皆さん、ぼくじいじい様に読みましょう。

ぼくは亀です。名前はまだありません。人間にたとえると小学校6年生の年齢です。

ぼくの甲羅のいくつかの六角形はうちの色が通りに変化する五色七変化の美しい亀です。自分で言うのもなんだけどカメラレオンみたいな美しい亀です。ぼくの甲羅をみつめていると人間のところが癒されます。じいじいのをカラー・セブピーと言います。パソコンの画面に疲れた人間の皆さん、どうぞたっぷりみつめてください。

鶴は千年亀は万年。縁起のいいぼくとつきあっていると得です。

そんなぼくにも、将来がみえない、むなしの毎日のことがありました。

ひとりのおじさんが声をかけてくれました。パッとぼくの将来がみえました。おじさん、ありがとうございます。ぼくはおじさんと「恩がえし」じいじい。

「おじさんのお名前は？」

「じいじい Q たろうと言います。」

「じいじい Q たろうさん、ぼくの甲羅の六角形をたっぷりみつめてください。」

ぼくは甲羅の美しい五色七変化を最高の品質にしました。必死でしたから、ぼくの頭や尻や尾からびんびんびんな液体ができました。ぼくはうらしま Q たろうさんとぼくのじいじいがともに美しい未来の世界へ移行行くよう、お誘いしたのです。そういう夢想へお誘いしたのです。

「尋ねました」

未来の世界へじいじいさんが移行行くにはしばらく時間がかかります。

ぼくはうらしま Q たろうさんに尋ねました。

「Q たろうさんは浦嶋伝説が好きですか？」

T Q たろうさんは浦嶋伝説の歴史に興味があります。語りはじめました。

「浦嶋伝説は日本列島のベスト・セラーであり、ロング・セラーであったようにです。」

はじめは海に生きる人たち、つまり、海人族のうわさが語りつがれ語りつがれてきたようです。

中国の後漢の時代、海人族の幾人かが中国大陸の海岸にたどりついた。そこには日本民族の想像を絶するきらびやかな文明があった。龍をデザインした建築もあったかもしれない。きらびやかなお酒や女性に酔いしれ、日本列島にもどりの熱心に語ったが、信用されず、変人扱いされた。淋しくなりとうとう老け込んでしまった。そんな事実があったかもしれない。

浦嶋伝説の跡が確認できるのは、京都の丹後地方の網野町あたりからです。漁業の町です。「

龜のぼくが口をはさみました。

「ぼくは網野町の海岸に張ったテントに居て夜の美しい漁火にみとれたことがあります。」

T Q だろさんが続けました。

「浦嶋伝説の不思議なストーリー。弱い者を救った。すると、健康平和を之恩がえされた。なのに、なぜか老いた。海というもの、女性と男性というもの、不老長寿というものをみつめるころが、込められている。」

T Q だろさんは勝手に別のことでしゃべり出しました。

「おれは自分が開拓した生命の技術の謎を解くため、浦嶋伝説とともに、中国の孫悟空の物語にも注目している。石から産れたとも言われる、孫悟空だ。昔の人の空想をバカにはいけない。それらは未来への夢なのだ。

人間の体内を深く感覚し、健康に良いものをまとめていく技、煉丹術というものがあつた。不老長寿の夢でもある。一方、鉱物や染料などをあれこれいじくり、何とか金ができないかと夢みた、錬金術というものもあつた。孫悟空の物語は、煉丹術の夢と錬金術の夢を橋渡しするものかもしれない。

おれが開拓した生命の技術は、生理と地球物理の関係の本質に迫るものだ。決して誤解しないでくれ。おれはあくまでも、架空論でなく、現実論の立場だ。過去の架空論には深い深い発想があり、それを現実論にしようと必死なのだ。だから、浦嶋伝説や孫悟空の物語に注目している。」

T Q だろさんはまた別のことをしゃべり出しました。

「海と温泉と八幡宮と高原と火山。九州の豊後地方を中心とするバランスに恵まれた地域。相撲の双葉山や野球の稲尾も出た。おれに中国の振り子、フーチを教えてくれた、この地方出身の広世さん。彼がこの地方などを旅して想った。生理と地球物理の関係の本質に迫るおれの技術にとり、この地方には深いヒントがある。健康に善い水にて手や口を清める、御手洗の儀式。おれは現実論としてその儀式の品質を高めたのだ。生理学として。認識学として。」

ぼくは気になっていたので、T Q だろさんにもうひとつ尋ねました。

「TQって何ですか？」

TQたるうさんは次のように重ねてあれこれ言いました。

「生命の技術です。技術は確立している。でも、理論的には、おれ自身もよくわからないのです。この技術をアインシュタインなどの理論で説明できますか？」

逆に、たろろが質問します。T arou Question」

TQ技術のご利益は、生活の質をあげがう。

Thank you Quality of life.J

TとQは大発見のきっかけとなった物質。Tocopherol Quinine」

TQ技術の効果は、生命の流転効果です。生命流転です。流転です。」

TQ技術の核心は諸原料の物性に特殊加工する処理です。人間の健康に善

いさまざまな「模様」を結晶させる処理です。原子核の内と外の「模様」で

す。そういう処理を通して酵素活性場というものをさまざまに調整します。」

「日本が欧米的な音楽や医療に偏っていることは健康に善くないのです。

TQ技術は中国の中医学を工業化するのです。アメリカと日本と中国の

文化のバランスが必要です。健康の要点はバランスです。イタリアのレオナル

ド・ダ・ヴィンチは人体のバランスを研究しました。」

「世界のヨガの権威である沖正弘先生という方がいました。でも、オウム

真理教という修業の足りないヨガ集団が、日本国の法律を深く犯しました。

沖先生にまじめに学ぶ人たちがとり、とてもとても迷惑なことでした。」

TQたるうさんがあまりに熱心なので、何でも重ねて尋ねました。

TQ技術は具体的にどう使えるのですか？」

TQたるうさんは細い目をさらに細めて言いました。未来を真剣にみつめ

る目です。

「一番目は「健康」。飲み物や食べ物、個人にあわせて健康に善いものにする。

ふつうの飲食物の味を変え健康に善いものに近づける。さまざまな素材や

形状の小物を用意し、からだのまわりから接近し、皮膚や筋肉や内臓などに善

い効果を与える。

二番目は「住居」。住居そのものを看護とするため、水や空気や大地を健康

に善いものへ調整する。そのため、建材や備品や大地の物性を変える。各種

の乗物という臨時の住居も同じこと。

三番目は「食物流通」。食物の流通において、鮮度を保持し、必要な調理

を加える。そのため、箱や器具や乗物の物性を変える。

四番目は「農業」。農業や水産業や牧畜業や林業において、人間や動物

や植物の健康に善い環境へ調整し、動物や植物がとる栄養を健康に善いも

のに調整する。植物や動物が育ちにくかった環境をも、育ちやすい環境へ

調整していく。人間が食べにくかった植物や動物をも、食べやすいものへ

調整してさへ。

五番目は「環境」。地球表面を人間や他生物の健康に善い環境へ調整してさへ。

要するに何でもありませんので、ぼくはあっけにとられ、甲羅を背にしてひっくりかえりました。

おおぐすく

ようやく、ぼくとT Qたるうさんのころがともに未来の世界へ移り行きました。T Qたるうさんは気づいていません。

ここは琉球海域に浮かぶ小さなリゾートの島です。健康平和のための琉球のお城があります。龍宮城というより、琉球城です。昔の米軍基地に対抗して創られたそうです。

お城の入口に看板があり、齋藤守也先生による解説があります。

『わたしは長野県茅野市にて出土した「縄文のビーナス」を研究しました。とくにその頭に書かれてある縄文言語を解読しました。

すると、人間社会が諸民族に分化する前の、世界共通の信仰がわかり、世界共通の言語がわかりました。原始人たちが体内の感覚をとても大切にすると素朴な言語です。日本列島は戦争が少なかったから、太古の世界共通の文化と世界共通の言語が、縄文の遺跡としてのこりました。

太古の世界共通の信仰は、北極星と三日月とへびでした。北極星は女性の象徴であり、三日月は男性の象徴であり、へびは女性と男性をつなぐ象徴でした。北極星は鏡となり、三日月は勾玉となり、へびは剣となりました。はじめはイモガイを加工した宝物が鏡でした。イノシシのキバを加工した宝物が勾玉でした。

縄文時代の海に生きる人たち、つまり、海人族は、琉球から遠く遠く北の蝦夷地まで、イモガイやゴホウラ貝を加工した宝物を贈り届けました。

へびはのちに中国などにおいて龍となりました。中東の聖書は太古の信仰を否定したため、へびは悪者となりました。

わたしは世界の健康平和への祈りとして、太古の世界共通の信仰を現実論として知り、それを健康平和芸術として表現することが善いと思いました。

そしてデザイナーの窪多啓先生にお願いして、この島の中央を流れる夏川の堤のレストラン“天心庵”を中心として、健康平和のための琉球のお城、琉球城をクリエイトしました。窪多先生は人間や動物の全身に窪みの多くある縄文言語がデザインとしてお好きです。』

琉球城のことを土地の人は「おおぐすく」と呼びます。愛称です。琉球語で「大きな城」という意味です。

一夜

ここは琉球城の中心、夏川の堤のリストラン“天心庵”です。

“天心庵”のウェイターやウェイトレスは、皆、お客さまの生理の状態を瞬に見抜く、ヨガの大家です。お客さまおひとりおひとりの今の状態にあわせ、最善の薬食メニューをご提案いたします。

“天心庵”へ運ぶ野菜や果物は、琉球本島の中央にある大川という山地にて生産するものを中心としています。自然農法とＱ技術とＴを組み合わせ、最先端の水耕ハウスの平和基地。それが名護市の大川にあります。土耕の自然農法が、土をいねいに育てるように、水耕の自然農法は、水をいねいに育てます。

“天心庵”のお客さまのあいだを乙姫さんがめったの歩きまわっています。何をやるわけでもありません。オリエンタルのクワイオパトラのような風情もある、中国の楊貴妃のような美人、乙姫さん。乙姫さんは、ユタという琉球のシヤーマンです。乙姫さんは目の下をぶっくろさせ、お客さまたちに極上のほえみを贈っています。

でも、極上のほえみを創るのはたいへんなのです。乙姫さんは精神を磨くため、真剣に肌を磨いています。遠い豊後地方のさまざまな種類の温泉を活用するのが、乙姫さんの得意技です。乙姫さんの肌は、弾みがある。琉球は亜熱帯なのに、なぜか雪の衣をまとったような弾みがあります。

そうして乙姫さんは、笑っていい友を増やしています。

“天心庵”のおみやげコーナーの人気商品はお守りです。もちろん、素材にＱ処理したお守りです。窪多先生によるとびきりの文様が入っています。

お守りの裏には**ネット安全**と大書してあります。インターネットを旅してたまされたりいじめられたりしませんように。とあります。お守りの表には**健康平和**と大書してあります。地球異変に耐えられる自分たちでありますように。とあります。

お客のよしもとみかんさんが言いました。

「人間の女性と男性って何だろっ？。日本の平安時代に紫式部さんが『源氏物語』にて提出した宿題。ようやくそれが解けはじめました。死ぬ愛も生理であり、生理学をわかった文学というのもあります。

この“天心庵”のテーブルには素敵な食物の調理があります。栄養の調理です。文学は情報インフォの素敵な調理ではないでしゅうか。教養の調理ではないでしゅうか。

わたしは昔のよしもどばなの『アムリタ』という小説を読みなおします。アムリタは健康に善い最高品質の水です。『アムリタ』が書かれた当時は、そういう善い栄養のみでなく、善い教養に飢えていた。とくに女性たちが。アムリタのような、ほのかに不思議、や、淡い深いほんとうの愛、に飢えていた。」

よしもとみかんさんが『アムリタ』にある訴えのことは読みあげました。

「…おいしい水をごくぐく飲むようなものなの。…」

みかんさんは話を続けました。

「最近、バレンタイン・デーに女性が男性に勾玉を、ホワイト・デーに男性が女性に鏡を、贈りあうことが流行です。もちろんそれらには、適切にティークーリが処理がしてあります。」

T Q たらろさんが目を白黒させました。

その横では、環境と農業の技術に詳しい柳平さんが、力説していました。「場。原子核。水蒸気。水。ミネラル。油脂。酵素。微生物。遺伝子。これらをバランスよく総合することこそが大切なんだ。」

柳平さんに学び、理想の会社を成功させた、和泉会長がニコニコしていました。和泉のようなワインを口にしながら。

その昔、「おもしろうてやがてむなしき資本主義」と書かれてあるホームページがありました。今はようやく、人間社会が調和しはじめています。そのホームページは、水の物性と酵素の物性に着目した、うらしまTQたらろさんのため、未来への水先案内人をつとめました。ワープロの二郎も使いこなされました。

お客さんたちの格調高い教養ある会話のあとは、昭和をなつかしむカラオケ大会でした。今夜だけのルールがありました。阿久悠作詞集『人間万葉歌』の中から歌う。ひとりひとりが磨いた人間性により、阿久悠先生のころにどこまで同化できるか。それを競いあう。さまざまな歌が出ました。

「愛と哀しみの旅路」のコーナー。都はるみの「北の宿から」。「八代亜紀の舟唄」。「スタア誕生」のコーナー。ピンク・レディーの「UFO」。「石川さゆりの「津軽海峡・冬景色」。

「ショウほど素敵な商売はなら」のコーナー。沢田研二の「時の過ぎゆくままに」。「わかれいさお、ロイヤル・ナイツの「宇宙戦艦ヤマト」。「和田アキ子の「あの鐘を鳴らすのはあなた」。

「青春の光と影」のコーナー。尾崎紀世彦の「また逢う日まで」。「&カプリシヤスの「五番街のマリーへ」。「森田公一とアップギャランの「青春時代」。「河島英五の「時代おくれ」。

「人間万葉歌」のコーナー。ピンク・レディーの「マンデー・モナリザ・クラ

っ。

最後の歌に乙姫さんのまゆが動きました。乙姫さんがじつじつに想いました。(あたしとモナリザってどういう関係かしら?)

それを察して、カラオケ大会の司会の各々さんもニコリとしました。

今夜のしめくりは、咲待香さんという方のヒーリング・ピアノでした。JOMONやうらしまがテーマでした。

琉球 城の夜はうらしまのうらしまでゆきました。安眠こそは健康の要点です。

玉手箱

すいぶん永く、うらしまーQたろうさんは、おおへすへ、琉球 城にいらるような気がします。このように楽しい毎日はありません。

T Q たろうさんはある夜、ふと目が覚めました。

となりに、乙姫さんの美しい寝顔があります。T Q たろうさんはドキとしました。乙姫さんは寝言なのに、与謝野晶子のじつばをそのまま言ったのです。

「…すべて眠りし女今も目覚めて動くなぬ。」

次の日、T Q たろうさんの机の上の本がありました。表紙に『科学技術史概論』とあります。T Q たろうさんは細ら目をむらり細めて言いました。

「じつじつ本におねの名前と業績が載るのはじつじつの日かなあ…」

亀のぼくはその本を手にとり、あるページを開け、「ニコリと」言いました。

「ほら、この通り、じつじつじつーQたろうさんの本名と業績が、すでに載っています。」

T Q たろうさんはハッとて、壁にある口めくりを確認しました。

「今日は西暦2023年10月16日… じつじつじつ。おねの39年目の誕生日…」

乙姫さんが近づいてきました。玉手箱をもっています。玉手箱は櫛など女性の化粧道具を納める大切な箱です。女性の精神の状態で髪の状態に移り、髪の状態が櫛の状態に移ります。

「あたしもあまりに楽しんでついでついでーQたろうさんと言えないことがあります。それはこの玉手箱の中に納めておきました。記念にお持ち帰りください。ただし、開けないほうがいいです。うらしまーQたろうさんの身のためです。」

実はティーンエイジャーのころのあたし、十五、十六、十七、と私の人生暗かった…」

乙姫さんが昔の流行歌の井井のじつばを言ったから、亀のぼくは頭を縮めました。

悟りました

うらしま T ティーキュー Q たろうさんとぼくのころがともに、現在の世界の名古屋の地にもどってきました。

T ティーキュー Q たろうさんのころの中に、乙姫さんからもらった玉手箱がしっかりとあります。

T ティーキュー Q たろうさんは、何でも試したい技術屋です。ある日ふと想いました。「玉手箱を開けてみてやね。」

うらしま T ティーキュー Q たろうさんは、ころの中であの玉手箱をそっと開けました。すると、瞬間的にまわりの空間の酵素活性場が変化しました。

年齢に比べて若々しかった T ティーキュー Q たろうさんが、見るみるうちに老け込みました。

玉手箱の中には、乙姫さんの精神が最悪の状態のときに用いた櫛が入っていました。

「ああ… これはおねが研究していた酵素活性場のマイナスだ…」
T ティーキュー Q たろうさんは悟りました。

「そうか… おねが未来の夢をあまのりにも早く追いかけてすぎ、まわりの人たち、とくに女性たちは、おねの壮大な夢を理解できていなかった。

男性の夢と女性の生活の現実が、調和しない段階。まだそういう時代だったのだ…」

かたわらの女性が言いました。

「このわたし、ひとりの民衆の鮮烈な新しい女の半生も、老年期に入りました。タンポポの花がそれなりにきれいに咲いたあとのように、綿毛がとびはじめています。」

亀のぼくは何も言えず、頭や足や尾を甲羅に収め、そっとひきこもりました。

うらしま T ティーキュー Q たろうさんはぼくにお礼を言いました。

「T Q 事業体の飛翔計画の夢をみさせてくれてありがとう。」
もしもし亀よ、亀さんよ。おまえに名前をくれてやう。今日からやすらぎまなぶと名乗れ。無理に有名にならなくてよい。無名のうちは無名のままよい。

い。亀のろい歩みのままでよい。やすらぎをまなぶ良い人を増やせ。無名の良人だ。無印の良品のように。」

T ティーキュー Q たろうさんは人生の最期においてぼくにひとつの願いを語りました。「和道開運」という研究用品を創わ。T Q の処理した、金属の板だ。

平和な商いの祈り。さ。試せばわかかな。え。
〈和道開運〉とは、平和を追求する日本の道が商として開運していくと

いう意味。

日本民衆の素朴な遊びどころある祈願グッズの伝統を未来的にデザインする。

これはもうひとつの学校のおもしろ理科実験パネル。素材にT Q処理してあるから、お客さまに自由にT Q現象を実験していただく。そして北極星と女性を象徴する鏡ともしよう。円という通貨をどうしていくか。和同開珎という日本の商いの原点をも反省しよう。

あとがき

うらしまT Q たらうさんの本名は山田俊郎です。この物語を書いたわたし、山田学まなぶの父です。わたしはこの物語において亀、やすらぎまなぶになりました。健康のめやすは「足が満つる」ことであると中国の老子も言いました。「満足」ということばの語源です。そして看護の原点は「手あて」です。保健と看護と医療のうち、T Q 技術は看護にあたります。

電気の歴史は、フアラデーがさまざまな実験をしたあと、エジソンがさまざまな発明をしました。

T Q 技術の歴史は、山田俊郎とわたしがさまざまな実験をしたあと、この物語の読者にさまざまな発明をしていただきたいと、望みます。

わたしは今、現に、横浜の浦島町の近くに住んでいます。この付近には浦嶋伝説の伝教バージョンがあります。

「三浦半島出身の浦島太郎が、丹後国へ行きさらに龍宮へ行きました。乙姫さんがもっていた観音像と玉手箱を得ました。丹後に戻った太郎はさらに自分のふるさと三浦半島に向いました。道中の神奈川にて太郎は自分の両親の墓をみつけてしまいました。太郎はそこに草庵を建て、観音像と玉手箱を納めました。それがのちに浦島寺となりました。」

この浦嶋伝説は江戸時代の東海道にて幾度もブームになりました。葛飾北斎がこの付近にて描いた、「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」もあります。世界に有名です。

あまか 天翔け 照機の大志に乗って
やみよ 闇夜の現世 無限に照らせ

林明日香の「凜の国」(鈴木健士作詞)より

平成十九年師走吉日 JOMONあかでみい校長 山田学 ©